

**2015年（会報第23号）**

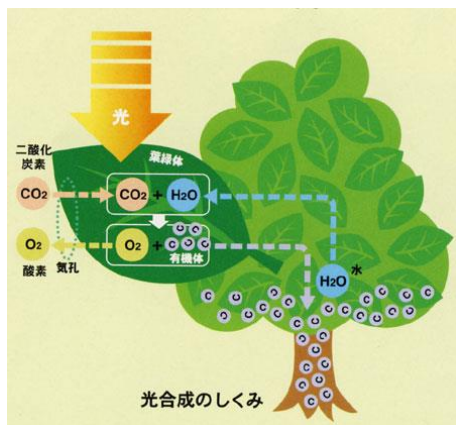
# **山行記録**



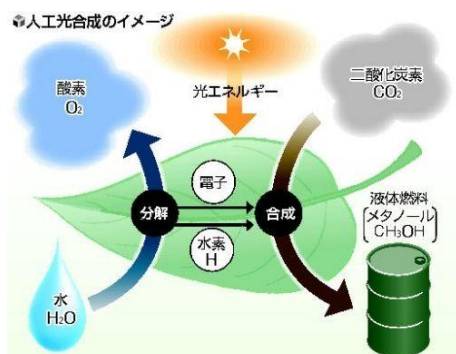
**新津ハイキングクラブ**

## 表紙と編集後記

表紙は梅雨明け3日後の会山行「コース 21 笹ヶ岳」、河原宿の雪渓を渡るとニッコウキスゲの群生に出会ったときの写真です。今年の山行は雨に見舞われたことや、雨天予報で中止が多かったです。これは、エルニーニョの発生による気象変化や夏の太平洋高気圧が弱く、大雨に見舞われた年でもありました。担当幹事のご苦労されたことでしょう。気象庁「エルニーニョ現象に伴う日本の天候の特徴」によると、春夏秋の降水量は、平年より多いとのこと。「山の天気予報は命のお守り」と言われております。



樹木は、大気中の二酸化炭素を吸収して光合成を行い、炭素を有機物として幹や枝などに蓄え成長する。



人工光合成のイメージ

私は登山をする度に、高山植物を目にします。「夢見る我」は、太陽エネルギーを利用する太陽電池（電気エネルギーに）は勿論。人工光合成（化学または水素エネルギーに）で反応効率が15倍と良くなってきた文献を読んだ、植物の光合成に興味を抱いた。

毎日、私たちは植物に水やりをし、開花するのを楽しみにしていますね。その植物は太陽の光を借りて、空気中の二酸化炭素と根から吸収した水を使って、自分で養分を作り、酸素と有機物を作り出している。このはたらきを光合成といい、自分で養分を作りだすことができるのは、植物だけが持っている特別な力です。

我々の身体や食料も有機物です。石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料、それを原料にして作られるプラスチックなどの石油化学製品も皆、有機物です。そしてこれらはすべて植物や藻類が光合成によって生み出したものだそうです。

太陽光で水を分解して水素と酸素をつくることができれば、エネルギーとしても、物質循環の視点から見ても、非常に良いことはわかります。水素は、酸素で燃焼させれば発熱して水に戻るし、水素を原料にして二酸化炭素と反応させれば、有機物を作れます。

人類の夢！人工光合成は、実用化が早くできる可能性がでてきたことは、人類の平和と地球環境を守る上で喜ばしいことです。例え

ば、①水、二酸化炭素および太陽光の組合せから作られる液体燃料は、クリーンかつ環境に優しく、再生可能なエネルギー源として、ガソリンやその他の輸送燃料に取って代わるものと言われています。また、②植物の光合成のように、太陽光のエネルギーを使って水と二酸化炭素から有機物を作り、地球のありふれた物質から、燃料や工業原材料を生み出す夢の技術です。「夢見る我」は、実用化したものを、この目で確かめたいです。また、和ませてくれる高山植物に出会うため高嶺を目指したいです。

(1322)N/S

(主な参考文献)：気象庁 Wikipedia 他

発行日：2015年(平成27年)1月31日

編集者：広報 (1322)N/S、(1448)Y/O、(1556)H/H

発行団体名：新津ハイキングクラブ <http://niitsuhc.jp/>